

若年女性の月経異常に対する中西統合医療



武内 睦子 先生

舞子台病院／西本クリニック

1982年 信州大学医学部 卒業
同年 神戸大学医学部 産婦人科 入局
1988年 淀川キリスト教病院
1991年 舞子台病院
1997年 西本クリニック

はじめに

多嚢胞卵巣を伴う月経異常に対し、中西統合医療を行った。西洋薬による治療としては月始め1日から10日までジドロゲステロン1錠を周期投与し、漢方薬による治療としては温経湯にもう1剤を弁証論治で決める2剤併用とした。その結果について報告する。

症例1 クロミフェン、hMG-hCG療法の反応が悪い女性

症例：28歳、既婚女性

主訴：不妊

現病歴：16歳頃より月経異常があり、結婚後数年が経過するが妊娠しないため、婦人科を受診した。西洋医学的な不妊治療を受けたが反応が悪く、排卵しにくいと言われたため、漢方治療を希望し当院を受診した。

現症：内分泌検査ではLH 22.5 mIU/mL、FSH 6 mIU/mL、エストラジオール 44 pg/mL、プロラクチン 16 ng/mLであり、超音波所見で多嚢胞卵巣を認めた。

本症例の証候分析を表1に示す。これらの証候より脾腎陽虚、腎虚水沍と弁証した。腎虚水沍証では表中黄文字のように水液代謝失調を認めることが多いため、処方では温経湯をベースに真武湯の併用を考えた。

表1 症例1の証候分析

■全身症状 手足と腰から下の冷え症である 手足、特に下肢がむくみやすい 疲れやすい	■舌診 暗紅色、胖大、齒痕、薄白苔
■消化器症状 乗り物に酔いやすい 下痢しやすい	■脈診 沈無力
■精神神経症状 不安感がある 動悸がある	■弁証 脾腎陽虚、腎虚水沍
	■治法 温腎健脾
	■処方 真武湯

経過：月始めにジドロゲステロン1錠を周期投与した。漢方薬は温経湯を中心に、当初は桂枝茯苓丸を処方したが下痢がひどくなり中止、さらに附子末では動悸が強くなり中止、その後、真武湯に変えたところ体調は改善し、3ヵ月目に排卵した。

症例2 6年間カウフマン療法をしていた女性

症例：29歳、未婚女性

主訴：無月経

現病歴：22歳から稀発月経となり婦人科を受診し、6年間、人工的に卵胞ホルモンと黄体ホルモンを周期投与するカウフマン療法を受けていたが、28歳時に自己判断で中止した。その後、漢方専門医を受診し、柴胡剤を中心とした煎じ薬を1年間服用したが、無月経が続くため当院を受診した。

現症：内分泌学的検査所見ではLH 15 mIU/mL、FSH 7 mIU/mL、エストラジオール 43 pg/mL、テストステロン 0.42 ng/mLであり、第1度無月経の可能性が示唆され、超音波所見で多嚢胞卵巣を認めた。

本症例の証候分析を表2に示す。表中の赤文字

表2 症例2の証候分析

■全身症状 手足が冷えてむくみやすい 汗かき(自汗) 左下肢に細絡がある	■舌診 暗紅色、齒痕、白膩苔
■目、耳症状 眼精疲労 疲れると高音の耳鳴り	■脈診 沈弦
■精神神経症状 いらいらしやすい 肩こり(特に左側)	■弁証 久病傷肝、肝血虚損、 肝胃不和、脾気虚、血瘀
	■治法 肝胃和解補脾、養肝活血
	■処方 柴胡桂枝湯合桂枝茯苓丸

の所見から血瘀症状、黄文字の所見から肝の症状が考えられた。さらに白膩苔からは肝胃不和により脾気が虚損され、この脾気虚から手足の冷えやむくみ、自汗が生じていると考えた。これらの所見から久病傷肝、肝血虚損、肝胃不和、脾気虚、血瘀と弁証し、治法は肝胃和解補脾、養肝活血と考え、処方柴胡桂枝湯合桂枝茯苓丸とした。

経過：他院にて柴胡剤を中心とした煎じ薬を長期間服用していたにもかかわらず無月経が続き、まず月経を回復したいという希望があったため、温経湯合桂枝茯苓丸を処方した。ジドロゲステロンはそのまま投与を続け、ホルモン投与7ヵ月目、漢方変更後2ヵ月目に排卵が認められた。

症例3 肥満を伴う月経異常の女性

症例：38歳、既婚女性

主訴：稀発月経、全身倦怠感

現病歴：初経時より月経異常があった。漢方専門医からは温経湯の投与、婦人科ではカウフマン療法を受けていたが全身倦怠感が強くなり、当院を受診した。

現症：BMIは35と肥満である。内分泌学的検査所見ではLH 15 mIU/mL、FSH 5 mIU/mL、エストラジオール 114 pg/mLである、さらにALT 46 IU/L、AST 82 IU/Lと軽度の肝機能障害を認めた。超音波所見で多嚢胞卵巣を認めた。

本症例の証候分析を表3に示す。表中の赤文字の所見から痰湿の多い状態、また外陰部に瘙痒感を伴うことから肝胆湿熱証と考えた。さらに痰湿が肝脾を痛め肝血汚損になっていると考え、湿痰傷肝脾、肝血汚損と弁証した。治法は清湿熱養肝と考え、処方は一貫堂竜胆瀉肝湯とした。

表3 症例3の証候分析

<p>■全身症状</p> <p>全身がいつもだるい 暑がりです汗かき 湿度があがると頭痛</p> <p>■消化器症状</p> <p>乗り物に酔いやすい 下痢と便秘を繰り返す</p> <p>■皮膚症状</p> <p>痒みがでやすい 外陰部に毛嚢炎が生じやすく 瘙痒感を伴うことが多い</p>	<p>■舌診</p> <p>紅色、薄白苔</p> <p>■脈診</p> <p>沈弦</p> <p>■腹象</p> <p>太鼓腹で脂肪が多い</p> <p>■弁証</p> <p>湿痰傷肝脾、肝血汚損</p> <p>■治法</p> <p>清湿熱養肝</p> <p>■処方</p> <p>竜胆瀉肝湯（一貫堂）</p>
--	---

経過：竜胆瀉肝湯の投与開始時に体重は82kgあり食事改善されなかったため、体重減少は認められなかった。しかし、直後に胆石の発作を起こしてか

ら食事にも注意を払うようになった。同時に竜胆瀉肝湯から柴胡清肝湯（煎）合桂枝茯苓丸に変えたところ、2ヵ月で7kgの体重減少を認め、さらにホルモンの投与を続けたところ3ヵ月目に妊娠した。

まとめ

多嚢胞卵巣を伴う月経異常の治療について私見を述べる。まず肥満の場合は減量を指導する。さらにクロミフェンの反応が悪い場合、妊娠を希望しない場合、体重減少性無月経の回復期には、①月始めに10日間ジドロゲステロンを1錠周期投与、②漢方は温経湯をベースに弁証論治した処方を組み合わせる、③煎じ薬の場合は阿膠を加える。

多嚢胞卵巣を伴う月経異常に使用した漢方薬を示す（表4）。

表4 経行後期

すべての症例にジドロゲステロン1錠、10日間投与

中医婦人科による分類	代表方剤	今回使用した方剤
血寒型	虚寒 大宮煎 (景岳全書)	温経湯合真武湯
	実寒 温経湯 (婦人大全良方)	温経湯合桂枝茯苓丸
痰湿型	芎帰二陳湯 (丹溪心法)	竜胆瀉肝湯合桂枝茯苓丸
血虚型	人參養榮湯 (和劑局方)	温経湯合紅参末
腎気虚型	大補元煎 (景岳全書)	温経湯合附子末
気滯型	加味烏薬湯 (医宗金鑑)	加味逍遙散合阿膠

COMMENTS

後山 私も不妊症の漢方治療は有効であることを経験していますが、阿膠を追加する理由についておたずねします。

武内 阿膠は腎を補助する役割があるとともに、動物性の生薬であり不妊症には有用性が高いと考えています。

後山 むくみがちの症例に温経湯を投与すると、さらに水を溜めこむのではないかと危惧しますが、峯先生いかがでしょうか。

峯 温経湯には津液を補うような生薬も入っていますが、基本は冷えを治す方剤です。不妊症では冷えがあると水が巡らないという病態が生じることがあり、八味丸、牛車腎気丸、真武湯などとの合方はよい選択だと思います。